

令和3年度 学校評価書(中間評価)

※1段：R3中間
2段：(R2最終)

輪島市立東陽中学校

| 重点目標 | 外部アンケート | | | 自己評価 | | | 達成度状況の考察(O)と改善方法(●) | |
|---|----------------------------------|-------------------------------|--|---|--|--|--|---|
| | 保護者アンケート | A+B | 生徒アンケート | 評価指標 | 達成度評価規準 | 評価 | | |
| 1 確かな学力の向上 | 学校は、学力向上に努力している。 | 93 (96) | 各教科の授業内容はよくわかる。(全教科平均) | 89 (93) | 【努力指標】 「魅力ある授業」を目指して授業改善に努め、生徒が「主体的・対話的・深い学び」を実行できている。 | ◆授業アンケート(全教科平均) ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○「授業がよくわかる」の肯定評価は昨年度の数値より4%減少。今年度は活用する力をつける授業展開を目指していることで、授業の難易度が上がっているためと考える。 ●基礎の定着を図りつつ、活用する力へつなげる指導を目指す。授業後・単元末で何ができていけば良いのか教師が明確にし、生徒が「わかった・できた」という達成感を感じられる授業展開を工夫する。 ○「自分の考えをわかりやすく説明できる」の肯定評価は昨年度より14%減少。相手を納得させるまでに至らなかったことや、具体的なイメージがなかったことが要因として考えられる。 ●基本的な話し方やプレゼンテーション、議論等の手法について、具体的な例を示し、「わかりやすい説明」のイメージをつかませる。また、発表の場・話し合う場面を設定し、経験を積ませていく。 ○今年度、学力向上プランの目標は「自力でまとめが書ける」生徒である。生徒アンケートでは「自力でまとめを書こうとしている」姿勢を問い、74%の肯定的回答を得ている。年度末には80%を目標としている。 ●これまでの取組を継続し目標数値を達成させたい。また、「自力で書いたまとめ」が教科で求められている適切な内容であるかが重要である。教師が求める「書きぶり」についてポイントを必ず生徒と共有し、フィードバックする。 ○「話す、書く等の表現力が身に付いてきている」は「82%の生徒が肯定的に評価している。「わかりやすく説明する力」「自力でまとめを書く力」をつけるために自分の考え等を書く場面や発表する場面を多く設定していることが要因と考える。 ●今後は生徒が身に付いた話したり書いたりする力が、相手に伝わる表現となるように、具体を示しながら指導していく。 |
| | | | 課題について自分の考えを書いている。 | 79 (89) | | | | |
| | | | 自分の考えを授業で1回発言をしている。 | 93 (96) | | | | |
| | | | わからないことや疑問に思うことを聞いている。 | 70 (96) | | | | |
| | | | 自分の考えをわかりやすく説明できる。 | 56 (70) | | | | |
| | | | 授業のまとめを自力で書こうとしている。 | 74 (*) | | | | |
| | | | 話し合う活動を通して、自分の考えが深まっている。 | 82 (96) | | | | |
| | 子どもには、家庭学習の習慣がある。 | 70 (73) | 毎日の課題や宿題を提出している。 | 82 (82) | 【努力指標】 各学年の目標家庭学習時間を達成できた。 | ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○宿題の提出については、リズムができており、提出できない生徒は2・3年生に固定化し、目標時間の達成と連動している。(4%の差は1名の差である) ●宿題の内容を見直し、目標時間が達成できるように工夫している。提出できない生徒へは課題の見直しや、昼休みなどを利用して出し切る指導を行っている。 |
| | | | 毎日、学年目標の家庭学習に取り組んでいる。学年目標の家庭学習に取り組んでいる。(1年60分 2年70分 3年90分) | 78 (93) | | | | |
| | | | 子どもは、睡眠を7時間30分とっている。 | 82 (96) | | | | |
| 子どもは、朝食を食べている。 | 96 (96) | 子どもは、決まりを守って生活している。 | 93 (100) | * | * | | | |
| 保護者として、SNS・ゲーム・インターネットの家庭内のルールを作っている。 | 78 (77) | ゲーム・インターネット使用は長くしていない。(1時間程度) | 30 (33) | C | ○年度当初に生徒・保護者対象に「スマホと学習・睡眠の関係」について講演を行ったが、使用時間の改善は見られない。 ●家庭との連携とともに生徒の自主的な取組が必要である。生徒達自身に考えさせ、ネットを利用する際の約束がなぜ重要なかを生徒会を中心に考えさせていく。 | | | |
| 保護者として、輪島市ルール(9時以降はしない)や、家庭内ルールを守らせている。 | 52 (62) | 9時以降、SNS・ゲーム・インターネットはしていない。 | 33 (41) | | | | | |
| 2 主体的に行動できる生徒の育成 | 子どもは、喜んで学校に行っている。 | 85 (89) | 学校は楽しい。 | 89 (96) | 【努力指標】 部活動や生徒会・委員会活動や各種行事などを通して、充実した学校生活がおくれるように指導できた。 | ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○学校へ行くのが楽しいと答える生徒は昨年度よりも7%減少。2年生は全員肯定的評価に対し1・3年生数名に否定的評価がある。友人関係や学校生活への活動意欲が関係していると考えられる。 ●生徒が安心して生活できる環境を保障するために、生徒の生活の様子を細かに観察し支援する。また、生徒の自主的な活動を促し、自身で創り上げることの楽しさや達成感を味わえるよう指導していく。 |
| | | | 学校は、行事が充実するように努力している。 | * | | | | |
| | 学校は、子どもの表現の場を大切にしている。 | 96 (100) | 委員会活動や学級活動で、企画・運営することは楽しい。 | 82 (89) | 【努力指標】 部活動や生徒会・委員会活動や各種行事などを通して、充実した学校生活がおくれるように指導できた。 | ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○自分の考えを伝える取組に「相手意識」をもつよう指導していることで、自己評価が厳しくなったために数値が昨年度より減少したのではないかと考える。 ●取組を継続しながら、生徒指導の3機能(自己決定・自己肯定感・共感的人間関係)を生かし、自分の意見を自信をもって表現できるように支援していく。特に1年生に肯定的回答が少ないため、自由に意見を言える人間関係の構築を今後も継続して指導する必要がある。 |
| | | | 集会等で自分の考えを伝えている。 | 56 (67) | | | | |
| | | | 物事を最後までやりとげてうれしかったことがある。 | 89 (93) | | | | |
| | 子どもは、自分から挨拶ができる。 | 93 (89) | 自分から挨拶ができる。 | 74 (82) | 【努力指標】 挨拶やマナーなど、中学生らしくその場に応じた言動ができるよう日常的に指導を進めることができた。 | ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○挨拶に関しては、3年生は改善。1年生と2年生の一部の回答が数値に影響した。学年が上がることによって責任感も出てきたようである。 ●生徒会で決めた「語先後礼」「気持ちのよい挨拶」を挨拶運動等で模範を示していく。また、「気持ちのよい挨拶」の具体を共有し、教師も生徒に求めていく。 |
| | 子どもは、家の手伝いをしている。 | 56 (65) | 家で手伝いをしている。 | 78 (82) | | | | |
| | 子どもは、将来の夢や希望をもっている。 | 78 (58) | 将来の夢や希望を持っている。 | 67 (74) | 【努力目標】 将来の夢を実現するために、キャリア教育を推進できた。 | ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○将来への夢が明確でない生徒が約4割(1年生・3年生に否定的回答が約半数)。自己肯定感とも連動していると考えられる。 ●外部人材の活用やキャリア教育と連動し、自身の可能性について考えさせていく。 |
| | 学校は、生徒理解に努め、適切に対応している。 | 100 (96) | 自分にはよいところがある。 | 59 (74) | | | | |
| | 保護者として、良いことについては褒めることを大切にしている。 | 96 (100) | 褒められたり認められたりする時がある。 | 81 (79) | 【努力指標】 教育相談活動を充実させるなど、生徒の悩みや相談事を親身に受け止め、共感的人間関係づくりと自己有用感が高まるように生徒指導に努めることができた。 | ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 | B | ○自己肯定感は昨年度より15%減少。例年、体育祭・文化祭前の1学期の数値は低めであるが、今年度は1年生と3年生に否定的回答が集中した。褒められ・認められている、と感じる数値に対して自己肯定感の数値が下回っているのは昨年同様である。 ●学力の保障と共に学校行事で活躍できる場面を設定していく。またキャリア教育を通して、将来の目標や夢に繋がる指導を展開する。 |
| 保護者として、悪いことについては、叱ることを大切にしている。 | 100 (100) | | | | | | | |
| 3 保護者・地域との絆 | 学校は、生徒のことで相談しやすい雰囲気である。 | 100 (92) | * | 【努力指標】 学校によりや各種お便り等を充実させ、学校から積極的に情報発信することができた。 | ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満 | A | ○保護者や地域の方々からの学校への協力・支援がとても大きい。今後も連携を大切にし、地域に貢献できる生徒の育成に努めたい。 | |
| | 学校は、通信等で方針や生徒の様子をわかりやすく知らせている。 | 93 (100) | * | | | | | |
| | 保護者として、学校からの通信に目を通している。 | 96 (100) | * | | | | | |
| | 保護者として、行事があるときは都合をつけて参加しようとしている。 | 96 (96) | * | | | | | |
| | * | | 東陽中学校の生徒であることに誇りを感じる。 | | | | | 93 (96) |
| | * | | 地域の人たちは、やさしく、深い絆を感じる。 | | | | | 100 (100) |
| * | | 将来地元に戻って働き、生活したいと思う。 | 59 (56) | 【努力指標】 生徒に対し、ふるさとや地域に目を向けさせ郷土愛を深めることができた。 | ◆生徒アンケート A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満 | A | ○学校や地域への愛着は安定している。特に地域の方々からの愛情を確実に汲み取っている。 ●地域の現状と課題を把握し、生徒達がどう貢献できるかをSDGsの学習も通して、持続可能な町づくりについて考えさせていく。 | |